

**平成28年度
第2回学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー派遣事業**

□期 日 平成28年10月27日(木)
 □会 場 名寄市立名寄小学校 1年1組教室、音楽室
 □講 師 学校力向上に関する総合実践事業アドバイザー
 北海道教育大学教職大学院教授 水 上 丈 美 氏

●**テーマ** アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の在り方

●**研究の視点(アクティブ・ラーニングの視点)**

◆**学習・指導方法の改善の視点**

- ・習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ・他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- ・子どもたちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

◆**授業レベルでの改善の視点**

- ・深い学びの過程～問題解決的学習の充実等
- ・対話的な学びの過程～言語活動の充実，協働活動等
- ・主体的な学びの過程～体験活動の充実等

●**公開学級** 1年1組 5校時 算数「引き算」(佐藤 千晶 教諭)

◆**本時の目標** 繰り下がりのある減法計算の仕方を考えることができる。

◆**本時の授業改善の視点**

主体的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決への見通しをもたせる ・活動の振り返りをさせる ・算数的活動に主体的に取り組ませる
対話的な学び	<ul style="list-style-type: none"> ・考えを広げ深めるペア交流，全体交流
深い学び	<ul style="list-style-type: none"> ・集団解決の中での新たな気づき ・よりよい解決

◆**本時の展開**

過程	主な学習活動
導入	①10の合成の練習をする。(10は1と9…) ②問題を把握する。 【牛乳が12本ありました。9本くばりました。残りはなん本でしょうか。】 ③本時の学習課題を確認する。 【12-9のけいさんのしかたをかんがえ，ともだちにせつめいしよう。】
展開	①12個のブロックを机に並べる。 ②12-9のやりかたを，ブロックを操作して考える。(個人思考) <ul style="list-style-type: none"> ・ばらのほうから，数え引きで取っていく。 ・10のまとまりから，数え引きで取っていく。 ・10のまとまりから一気に9を取る。 ・ばらから2取り，10のまとまりから7取る。 ③12-9のやりかたをペアで説明する。(ペア交流) <ul style="list-style-type: none"> ・同じ方法で行っていたら，二人で違う方法を探す。 ・違う方法で行っていたら，相手の方法で行う。 ④ブロックの動かし方を発表する。(全体思考) <ul style="list-style-type: none"> ・2から引けないので，10からとりました。



	⑤ばらから取る方法を全員で説明できるように、ペアで交流する。(ペア交流) ⑥ブロックの動かし方を発表する。(全体思考) ⑦10から取る方法を全員で説明できるように、ペアで交流する。(ペア交流) ⑧2つのやり方があることを確認して、それぞれのよさを考える。 ・じゅんばんにとついでにいける。 ・10のまとまりで見るとわかりやすい。
終末	①本時のまとめをする。 ・ばらからとる ・10からとる ②振り返りをする。

●事後研

教職員からは、「全員がとなりの子どもに説明するペア交流は、全員が理解するにつながる対話的な学びだった」や「ペア交流を多くとることで、お互いに説明できるように学び合うことができていたと思う。」といった感想が出される一方で、「明確な理由をもっている子どもが少なかった、個人思考をしっかりと行わせることが大切である」や「ペア交流の際、ブロックを操作するだけで対話していなかったのもう少し時間をとって対話させるようにしたらよかった」といった意見も出されていました。

助言の水上教授からは、説明の仕方を考えさせる必要があったことや普段から説明の仕方にかかわるスキルの指導をしておくべきである、また、個人思考の時間を十分にとり、自分の考えをもてるようにすべきであるといったことが述べられていました。

全体としては、「新卒2年目の先生とは思えない素晴らしい授業で学級経営がしっかりしており、それを基盤にして、子どもがペア交流や全体交流といった子ども主体の学習が展開されていました。」という、うれしいお言葉をいただきました。

●教育講演会

講演題 「アクティブ・ラーニングの視点からの授業の質的改善」

講演の概要

- これからの時代の教員に求められる資質能力として、不易な資質能力や自ら学び続ける教師であることに加え、新たな課題に対応できる力量や組織的・協働的に諸問題の解決に取り組む力が必要である。
- アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を進めるには授業の基盤づくりである学級経営の充実が不可欠である。
- 授業の基盤ともなる学習規律や教室環境の整備等は、これまで潜在的なカリキュラムであったが、顕在化させる必要がある。
- なぜ、アクティブ・ラーニングか？というと、質の高い学びを実現し、子どもたちが学習内容を深く理解し、資質能力を身に付け、生涯にわたってアクティブに学び続けるようにするためである。
- これからの授業づくりとしては、「課題の発見」→「概念の獲得」→「実践化・行動化」という基本原理を大切にすべきである。
- 「課題の発見」については、生活や事象から課題を発見する、解決の見通しをもつ、見通しが通用するかどうかの検討が大切である。
- 「概念の獲得」については、追求・解決を協働して行う、獲得した見方や考え方の交流が大切である。
- 「実践化・行動化」については、見方や考え方の実践化・行動化について考える、実践・行動に移すことが大切である。
- アクティブ・ラーニングの視点から授業改善を進めるにあたっては、指導したことがしっかりと身に付いたかを見取り、自らの指導の改善に生かす学習評価がますます重要になる。

